

ビジネス宣教協力を支えるディアスポラ宣教協力

Business As Mission with Global Diaspora Network

1. 経緯

1) 定義

過去から未来を展望する中で歴史観と世界潮流をふまえた過去から未来を展望する文脈において、成長の限界について警鐘が響いた戦後 20 年から戦後 70 年、1965～2015 の 50 年間を見つめ直し、未来 2020/2030./2050 を目標に推進が加速された国連ベースのプロジェクトと協調可能な方向で、日本が進めてきたグローバル化を支える宣教協力を深めることが求められている。

「ビジネス宣教協力を支えるディアスポラ宣教協力」は、多文化共生社会における共存・協働により、社会変革・未来貢献を担う次世代グローバル人材を支える宣教協力である。そして、ローザンヌ運動と歩みを共にしつつ、持続可能な開拓に取り組んでいる。

2) 経緯

「ビジネス宣教協力を支えるディアスポラ宣教協力」は、日本伝道会議第 5 回(2009)に向けた過程で形成された Diaspora Network for Japanese(2005)とそのポータルサイト DNJ Onlie (<http://www.dnjonline.org> <http://dnjonline.org/>)を契機に、タスク(Business)とリソース(Bridge Builder を担う Diaspora、国際人 Global minded disciple)から成る超教派ベースのネットワークやクラウドとして拡大されてきた。社会と教会の架け橋を担う信徒が参加するプレイスメイキング Place-making として、音楽・美術による文化交流ミニストリー(1983)により創作されてきたオリジナル・エンターテインメントも、次世代アーキテクチャーとして内外で用いられている。

2. 歴史観と世界潮流を通した文脈

Context through world trends with historical perspective

時代	世界史とローザンヌ運動	日本宣教史
1945	(戦後 10 年)	ビリーグラハム大会 東京オリンピック
1955		
1956		
1964	(戦後 20 年)	ビリーグラハム大会第 2 回
1965		
1967		
1972	沖縄返還、日中国交正常化、日本列島改造 成長の限界	

1974	1次・2次オイルショック ローザンヌ世界宣教会議第1回(ローザンヌ)	日本伝道会議第1回(京都) JCE1(京都)
1980	LCWE1(ローザンヌ)	ビリーグラハム国際大会
1982		JCE2(京都)
1987	ローザンヌ若手リーダー大会(シンガポール) LM/YLG1	
1988	ソウルオリンピック	
1989	天安門事件とベルリンの壁崩壊 LCWE2(マニラ)	
1991		JCE3(塩原)
1994		ビリーグラハム国際大会第2回
1995	阪神淡路大震災	
2000		JCE4(沖縄)
2001	9.11	
2004	LM/Lausanne Forum(パタヤ)	
2006	LM/YLG2(クアラルンプール) Urbana 2006	ANRC09
2009	Urbana 2009	JCE5(札幌)
2010	LCWE3(ケープタウン) COP10(名古屋)	ANRC10
2011	3.11 CCCOWE9(ジャカルタ) ALCOE7(ウランバートル)	
2012	Urbana 2012	ANRC12
2015	(戦後70年) アジェンダ2030、COP21(Paris) Urbana 2015	GRC2015
2016	LM/YLG3(ジャカルタ)、CCCOWE9(台北)	JCE6(神戸)
2017		
2018	宗教改革500年	
2020/2021	Urbana 2018	
2023	LCWE4、CCCOWE10、Urbana 2021	JCE7、関東大震災100年
2025		
2030	(戦後80年)	JCE8
2050		

3. 経緯詳細

- 1) 成長の限界 The Limits to Growth 1972 by Club of Rome, Wintertur
- 2) 石油ショック第1次 Oil Crisis 1973
- 3) **ローザンヌ世界宣教会議第1回 LCWE1(1974 Lausanne)**
- 4) 日本伝道会議第1回(1974.06.03-07 Kyoto)
- 5) 石油ショック第2次 Oil Crisis 1979
- 6) 日本伝道会議第2回(1982.06.03-07 Kyoto)
- 7) YLG1(1987 Singapore)
- 8) 六四天安門事件(1989.06.04 Beijing)
- 9) **ローザンヌ世界宣教会議第2回 LCWE2(1989.07 Manila)**
- 10) ベルリンの壁崩壊(1989.11.09 Berlin)
- 11) ドイツ再統一(1990.10.03 Berlin)
- 12) 日本伝道会議第3回(1991.06.04-07 Shiobara)
- 13) 阪神・淡路大地震(1995.01.17 Japan)
- 14) 香港返還(1997.07.01 HK)
- 15) 日本伝道会議第4回(2000.06.28-30 Okinawa)
- 16) アメリカ同時多発テロ事件(2001.09.11 NY)
- 17) ローザンヌ・フォーラム(2004.09.29-10.05 Pattaya)
- 18) スマトラ島沖地震 Sumatra-Andaman Islands Earthquake (2004.12.24)
- 19) YLG2(2006 Malaysia)
- 20) 日本伝道会議第5回(2009. 09.21-24 Sapporo)
- 21) **ローザンヌ世界宣教会議第3回 LCWE3(2010.10.16-25 Cape Town)**
- 22) COP10(2010.10.18-29 Nagoya)
- 23) 東日本大震災(2011.03.11)
- 24) アジア・ローザンヌ宣教会議 ALCOE(2011.06.01-04 Ulan Bator)
- 25) Global BAM Congress(2013.04.25-28 Chiang Mai)
- 26) 国連防災会議第3回(15.03.14-18 仙台)
- 27) Global Diaspora Network/Global Diaspora Forum (2015.03.24-28 Manila)
- 28) 国連持続可能な開発サミット(15.09.25-27 NY)
- 29) COP21(2015.11.30-12.12 Paris)
- 30) YLG3(2016.08.03-10 Jakarta)
- 31) 地域包括ケアサミット(16.07.23 仙台、17.xx.xx 鹿児島)
- 32) 日本伝道会議第6回(2016. 09.27-30 Kobe)
- 33) **ローザンヌ世界宣教会議第4回 LCWE4(2020/2021 ? XXXXXX)**
- 34) その他

4. 経緯詳細の補足説明

1) LCWE1(1974)に向けて

- ① 成長の限界(1972)、第 1 次オイルショック(1973)を受け、戦後の高度経済成長から持続可能な成長への変化が進展した。
- ② LCWE1 は、会議に留まらずローザンヌ運動となり、全世界の福音派諸教会にビジョンと活力と協力のネットワーク形成を促した。YLG(Singapore 1987

2) LCWE2(1989)に向けて

- ① 冷戦終結とソ連崩壊、東欧の社会変革の激震が世界に広がる中、六四天安門事件からベルリンの壁崩壊の中間に YLG を経て LCWE2 が開催された。
- ② YLG(1987 Singapore)から LCWE2(1989)を経て、ローザンヌ・フォーラム(2004 Pattaya)と YLG(2006 Malaysia)へつなげられた。

3) LCWE3(2010.10.16-25)に向けて

- ① LCWE3 は、COP10(2010.10.18-29)と同時開催され、双方の参加者による情報共有と祈禱連携が深められた。
- ② LCWE2 はマニラ宣言を派生させ日本からの参加者が 30 数名となり、邦人信徒がはじめて参加した。
- ③ LCWE3 はケープタウン誓約を派生させ、アジア世界宣教会議(2011.06.01-04)や Global BAM Congress(2013.04.25-28)、GDN/GDF(2015.03.24-28)が積み重ねられた。

4) LCWE4(2020/2021 ?)に向けて

- ① 戦後 70 年(2015)から未来 2020/2030/2050 をめざす中、持続可能な開発のためのアジェンダ 2030(MDGs+SDGs 2015.09.25 NY)と COP21(2015.11.30-12.12 Paris)が開催され、ポスト CTC との整合が課題となった
- ② YLG(2016.08.03-10 Jakarta)を経て LCWE4 へつなげられた。

5. 未来 2020/2030/2050 に向けた次世代の課題と展開

Theological Education Issue with project initiation for 2020/2030/2050

- 1) 社会変革・未来貢献のプロジェクト(タスク)について、多文化共生社会の共存・協働による隣人チームワーク(リソース)で取り組みつつ、神と隣人に喜ばれ開拓を前進させる持続可能な成長を支える神学や宣教広報が求められる。
- 2) 国連ベースの MDGs+SDGs が 2000~2030 に向け取り組まれる中、ケープタウン決意表明 Cape Town Commitment(2010)と共創する形で展開されることが期待される。時代変革の BuzzFeed をウォッチしつつ、宣教協力のインフラ整備とブリッジビルダーの育成がつねに求められる、

6. 思想のラディカル化と思想家の系譜

- 1) 戦後 70 年(2015)に催行された国連ベースのプロジェクトにより、多文化共生社会における共存・協働により未来 2020/2030/2050 をめざす社会変革目標が提示された。
- 2) 戦後 70 年総括から 21 世紀の未来を展望し、地球と人類の重要課題を切り拓く各地域・国の受け皿動向として、現職米大統領の広島訪問(2016.05.27)と米大統領選挙(2016.11.08)が注目されている。イギリスの EU 離脱やトランプ現象に見られる地殻変動に揺り動かされる文脈において、ローザンヌ運動が牽引する Creation Care や次世代宣教協力の展望が注目されている。
 - ① 放射能汚染 Radioactive Contamination/Pollution
 - ② 放射能被曝 Exposure to Radioactivity
 - ③ 広島原爆の日 2016.08.06 長崎原爆の日 2016.08.09 フィナーレ爆撃 1945.08.13-14
- 3) 戦後保守思想のリーダーであるラッセル・カーク Russell Kirk (1918-94)、経済学者のフリードリッヒ・フォン・ハイエク Friedrich August von Hayek(1899-1992)、ビリー・グラハム Billy Graham(1918-)が学んだジョン・グresham・メイチェン John Gresham Machen(1881-1937)、そしてサミュエル・フィリップス・ハンティントン Samuel Phillips Huntington(1927-2008)とフランシス・フクヤマ Francis Yoshihiro Fukuyama (1052-)に至る思想家の系譜を通し、「歴史観と世界潮流をふまえ平和と持続可能な未来をめざし、多文化共生社会の共存・協働により社会変革・未来貢献を担う次世代グローバル人材育成の宣教協力を開拓する」ことを推進し続けたい。
<http://www.kirkcenter.org/>
http://www.kirkcenter.org/images/uploads/Spring_2016_Newsletter.pdf
<https://billygraham.org/>
- 4) 日本では、トーマス・カーライル Thomas Carlyle (1795-1881)、ラルフ・エマソン Ralph Waldo Emerson (1803-1882)、内村鑑三(1861-1930)の思想的繋がりが注目されている。
- 5) 世界各地で起きている事象を通じたローカリズム、世界各地における共時的な政治と思想のラディカル化や中産階級ラディカルの勢力拡大について、歴史と啓示の観点で David Platt(1979-)の“Radical”(2011.04)はどのようにそれに対応して行くのかを捉えたい。
<https://www.nationaljournal.com/s/74221/return-middle-american-radical>

以上